

教養部会准教授 キアラ・ザンボルリン

1. 研究活動

〈論文〉			
Forme e sfumature del nulla ne <i>La grande bellezza</i> di Paolo Sorrentino	2016. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』第37巻 127～156頁	映画『グレート・ビューティ』における「無」の有様についての考察
ピノッキオの意義を探る—ビッフィの理論に基づくコッローディの小説とベニーニの映画についての考察—	2016. 2	名古屋芸術大学教職センター紀要 第4号 23～39頁	本論では、ジャコモ・ビッフィの <i>Contro Maestro Ciliegia</i> （「サクランボ親方に反論」1977年）を踏まえて、ベニーニの映画『ピノッキオ』及びコッローディの小説『ピノッキオの冒険』を解説した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目名 イタリア語 I・II・III		〈特別授業〉
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
教材作成、オリジナル テスト問題集作成、など	Keynote プレゼンテーションソフトウェアに基づいた発表をし、学習者のイタリア語文法の知識やコミュニケーション能力を高めるように授業を行った。	

授業科目名 異文化入門	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
教材作成（講義録、2014年度版→『愛の三文作～ロベールト・ベニーニ名作の手引き』）、オリジナル ミニレポート カード作成、など。	異文化間ユーモア（intercultural humor）の観点から学生のコミュニケーション能力を高めるように授業を行った。
授業科目名 舞台言語表現演習（大学院）	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
学生の演奏曲目に基づいた教材作成	正しいイタリア語発音を身につけ、オペライタリア語を学び、歌詞を解釈し、楽しくたっぷり完璧なイタリア語の発音で歌わせるようにオペラ教室で授業を行った（ピアノ伴奏者4回つき）。ビデオを取り、何回もパフォーマンスを見ながら発音の間違いを指摘し、充実に学んだ。
授業科目名 外国語研究 伊語（大学院）	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
共著者教科書『イタリア語発音トレーニング』に基づいた授業を行った。	正しいイタリア語発音を身につけ、イタリア語文法の知識やコミュニケーション能力を高めるように授業を行った。

3. 学会等および社会における主な活動

Associazione Italiana Studi Giapponesi (伊日研究学会)	2001～	会員
Linguistic Association of West Japan (西日本言語学会)	2002～	会員